

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

平成27年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

平成27年度病害虫発生予察注意報第4号

1 作物名 施設：きゅうり、にがうり、とうがん 露地（平張り）：さやいんげん

2 病害虫名 ミナミキイロアザミウマ（図1）

3 発生地域 沖縄本島、宮古島、石垣島

4 注意報発令の根拠

- （1）本島中南部における1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数はにがうりおよびさやいんげんで平年より多く、きゅうりでやや多かった（表1）。
- （2）宮古島における1月中旬の調査の結果、とうがんで葉当たり成虫数およびつる先当たり成虫数は平年より多かった。
- （3）石垣島における1月中旬の調査の結果、にがうりでつる先当たり成虫数は0.10頭（前年0頭）であった。
- （4）気象予報によると向こう1か月の気温は高い見込みであり、本種の発生を助長すると考えられる。

表1 ミナミキイロアザミウマの発生状況

地域	作物	単位	本年	前年	平年	平年比発生程度	発生圃場率
沖縄本島	きゅうり	成虫数/葉	0.15	0.20	0.06	やや多	40%
	にがうり	成虫数/葉	0.26	0	0.05	多	100%
	さやいんげん	成虫数/葉	0.63	<0.01	0.07	多	80%
宮古島	とうがん	成虫数/葉	0.24	0.01	0.05	多	60%
		成虫数/つる先	0.62	0.16	0.24	多	
石垣島	にがうり	成虫数/つる先	0.10	0	—	—	40%

5 発生生態および被害

- （1）主に葉裏や果実に寄生する（図2）。特に果実ではケロイド・さめ肌症状、傷果、奇形果の原因となることから品質を著しく低下させる（図3）。
- （2）寄主範囲は広く、野菜だけでなく多くの雑草で増殖する。
- （3）一部のウリ科野菜ではウイルス病（黄化えそウイルスや灰白色斑紋ウイルス）を媒介する（図4、5）。
- （4）蛹は多湿条件で生存しやすく、土壌表面や落ち葉で蛹化する。

6 防除上注意すべき事項

- （1）繁殖力が高く、多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- （2）侵入を防ぐため、施設出入り口は二重カーテンなどを設置する（図6）。
- （3）施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除去する。
- （4）施設栽培では栽培終了後に蒸し込みを行い、施設外への分散を防止する。
- （5）摘心や摘葉後の残さは、ビニール袋に入れるなどして密封し、施設外に持ち出し処分する。
- （6）薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



図1 ミナミキイロアザミウマ成虫



図2 にがうりの被害葉



図3 とうがんのさめ肌症状



図4 きゅうり黄化えそ病の症状



図5 にがうり灰白色斑紋病の症状



図6 出入り口の二重カーテン

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : 098-886-3880

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>